南部中ホームページ （http://www.nanbu-chu.ed.jp/）はこちらから →

南部町立南部中学校　学校だより　R8第１０号

城山の風

令和8年9月17日（木）

校長　樋 口 信 也

第 16 回輝城祭開催

第 16 回輝城祭は、長く続いた雨によるグランドコンディション不良のため文化の部だけを 12 日（土）に、体育の部は 14 日（月）に延期して実施しました。

１．オープニング

文化の部は生徒会本部によるオープニングから始まりました。「開花」をテーマとした寸劇で、「最高の花を咲かせよう」と呼びかけました。続いて３年生によるソーラン節です。卒業生の指導も受けながら着実に練習を重ねていき、本番では、体育館が震えるほどの迫力あるソーラン節を披露してくれました。指の先まで意識していることが感じられる切れのあるソーラン節でした。



２．開祭式

〇ポスター表彰

広報部門長の望月楓さんから受賞者に賞状が授与されました。

【最優秀賞】遠藤　蘭さん

【優　秀　賞】原田寧々花さん・望月琉愛さん

【校　長　賞】田村真夕さん

〇学級旗の紹介

学級旗は、各クラスのテーマや輝城祭に対する意気込みが表現されていました。担任の先生、クラス全員の姿、クラススローガン、虎、龍などどれも力作揃いでした。

３．１年　内船歌舞伎『吉例曽我　対面の場』

化粧をして衣装を身につけた役者達が体育館に入ってくると、「おぉっ」というどよめきが起こりました。この内船歌舞伎を楽しみに訪れた方もいると思います。言葉も言い回しも現代とは違う長い台詞、普段はしない動きや所作、とても難しかったと思いますが、内船歌舞伎保存会の方々の熱心で丁寧な指導を受け、見事に演じ上げました。地域の伝統文化を守ろうとしている人たちと中学生が一体となって取り組む姿に感動しました。



４．２年　演劇『現代仕置人ー消えてもらいます』

　中学生の英子は、母親が決めたとおりの勉強や習い事ばかりの日々を過ごしていたが、香織との出会いで自分が本当にやりたいことに気付きます。悩んだ末、英子は仕置人の元を訪れ、自分を消してほしいと依頼します。次に、英子の母親が、娘をそそのかしたと香織を消してほしいとやってきます。さらに香織が英子を探してほしいとやってきて・・・。結局、母親は娘の本当の気持ちを知って、これまでのことを改めます。これで良かったのだと思う一方で、母親の気持ちも分かる演劇でした。



５．美術文芸部発表

　今年は、美術文芸部と全校製作がコラボして、リングアートで大きな作品を制作しました。色画用紙で輪（リング）を作り、それをモザイク画のように貼り合わせて一つの絵にするというものです。ふるさと南部町をテーマに、あじさいと富士川、そして白鳥山から見た富士山を描きました。また、展示コーナーには、絵画や切り絵、陶芸など普段の部活動で作った作品も展示され、訪れた人の目を楽しませていました。



６．吹奏楽部発表

　吹奏楽部は、15名で、「We will rock you」「ジブリメドレー」「情熱大陸」「高嶺の花子さん」の４曲を演奏しました。子どもから大人まで、どの世代も楽しめる選曲でした。また、今回もMC（トーク）が面白く、ジブリ作品の名セリフは秀逸でした。いつも吹奏楽部の発表には、見ている人に楽しんでもらおうという気持ちが込められています。楽しい演奏でした。



７．３年演劇『Goodbye My・・・』

　３年生の演劇は、命・生きることをテーマとした演劇でした。３年生は、１年生の時から命をテーマとした演劇に取り組んできて、その集大成となるものでした。人間が生まれる前の世界で、決して幸せとは言えない自分の運命を半ば知らされ、生まれることを恐れる子どもたち。彼らは、生まれるか消えていくか選択を迫られます。悩み苦しむ中、老人の励ましを受け、社会を変えて未来を切り開く希望と決意を持って誕生の門を通ります。真に迫った演技で、どんどん作中に引き込まれていきました。感動しました。



クラスで、学年で、全校で、夢中になって取り組んだ輝城祭の思い出は、大人になっても色あせることはないでしょう。

「自分だけの花を咲かせ続けよう」

卒業生が卒論のため内船歌舞伎を見学

　９月９日（水）、本校卒業生の山本真凜さんが、内船歌舞伎保存会の山本純司会長とともに来校しました。現在大学４年生で、卒業論文で内船歌舞伎のことを調べていて、１年生の取組の様子を見学に来たとのことでした。この日は、総練習で衣装も着ていたので、ちょうどよかったようです。また、本人も子どもの頃に内船歌舞伎に出ていたという話も聞きました。卒業生が、地元の伝統文化を卒論に選び、母校に見学に来る、輝城祭で内船歌舞伎をして良かったと思う出来事の一つでした。